

令和2年度

人間生活学総合研究科教授内容

臨床心理学専攻

東京家政大学大学院

R2 シラバス 臨床心理学専攻

(5) 臨床心理学専攻(修士課程)

区分	授 業 科 目	単位数	臨床心理士 必選別	公認心理師 必選別	担 当 教 員			備考(シラバスページ)	
臨床心理学基礎分野	臨床心理学特論	4	必		教授	福井 至	高専	P1	
	臨床心理学面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	2	必	選⑦	准教授	岡 島 義	高専	P3	
	臨床心理学面接特論Ⅱ	2	必		教授	相馬 誠一	高専	P5	
	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	必	選⑥	准教授	岡 島 義	高専	P6	
	臨床心理査定演習Ⅱ	2	必		講師	平野 真理	高専	P8	
	臨床心理基礎実習	(2)	必		教授 講師	三浦 正友 五十嵐 友里	高専	P9	
	臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習)	(1)	必	必⑩	教授 教授 准教授 講師 講師 特任講師	相馬 誠一 三浦 正友 岡 島 義 平野 真理 五十嵐 友里 藤 和貴	高専	P11	
	臨床心理実習Ⅱ (多様な形式のスーパービジョンを含む)	(1)	必		教授 教授 准教授 講師 講師 特任講師	相馬 誠一 三浦 正友 岡 島 義 平野 真理 五十嵐 友里 藤 和貴	高専	P14	
臨床心理学専門分野	臨床心理統計法特論	4	選 (A群科目)		教授	井上 俊哉	高専	P16	
	臨床心理学研究法特論	2	選 (A群科目)		客員教授	西村 純一	高専	P18	
	人格心理学特論	2	選 (B群科目)		講師(兼任)	嶋田 洋徳	高専	P19	
	認知心理学特論	2	選 (B群科目)		講師(兼任)	高橋 秀明	高専	P20	
	社会病理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2	選 (C群科目)	選④	講師(兼任)	太田 大介	高専	P21	
	家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2	選 (C群科目)	選⑧	客員教授	大熊 保彦	高専	P23	
	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	選 (D群科目)	必①	講師(兼任)	中野 正寛	高専	P24	
	心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	選 (D群科目)	必①	客員教授	近喰 ふじ子	高専	P25	
	障がい児・者心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	選 (D群科目)	選②	客員教授	近喰 ふじ子	高専	P27	
	グループ・アプローチ特論	2	選 (E群科目)		講師(兼任)	バーンズ 亀山 静子	高専	P29	
	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2		選③	講師(兼任)	バーンズ 亀山 静子	高専	P30	
	発達臨床心理学特論	2	選 (E群科目)		講師	平野 真理	高専	P31	
	産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2		選⑤	客員教授	西村 純一	高専	P32	
	生徒指導・教育相談・キャリア教育 (心の健康教育に関する理論と実践)	2		選⑨	教授 教授	相馬 誠一 三浦 正友	高専	P33	
研究指導	特別研究	4	必		教授 准教授 講師	福井 至 井上 俊哉 相馬 誠一 三浦 正友 岡 島 義 五十嵐 友里 平野 真理	P34		

※臨床心理学専門分野では、必修8科目の他、A群科目からE群科目の5群それぞれ1科目2単位以上を必ず履修する。

※公認心理師については、①～⑩の科目分野に含まれる科目を少なくとも1科目ずつ履修していれば、受験資格が得られる。(①はいずれか1科目必修)

※教職課程については、免許種別に、備考欄に記載した授業科目から24単位以上を履修する。

授業科目名：臨床心理学特論	単位数：4 単位	必修 (高専(公民))	担当教員名：福井 至
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理学の各種理論を実際の問題に応用できる。 ・臨床心理士・公認心理師として、多様なクライアントに対して多様な心理療法を活用して、総合的に効果的な心理援助ができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では新たに提唱されつつあるものも含めて、臨床心理学に関する種々の理論と技法について学ぶ。また、各々の理論・技法間の関係を構造的に考察する機会とする。前期の1回～14回は、医療保険が適用されている、うつ病の認知行動療法と、不安障害の認知行動療法について学習していく。また後期の15回～28回は、各種心理療法について、その開発過程や人間観、および病理論などについて理解し、その治療法の実際をビデオで確認し、ディスカッションしていく。</p> <p>本講義を通して、臨床心理士・公認心理師として必要な理論と実践力を身に着けることが期待される。</p>			
<p>第1回 オリエンテーション 行動療法と認知行動療法</p> <p>第2回 認知行動療法とは エリスとベックについて、予習はp. 1～p. 29まで読んでおくこと</p> <p>第3回 認知行動療法の主な種類 予習はp. 30～p. 52まで読んでおくこと。</p> <p>第4回 思考パターンを変えてみよう(ロールプレイビデオ視聴とDACS実施) 予習はp. 54～p. 78まで読んでおくこと。</p> <p>第5回 自動思考の変容のロールプレイ 予習はp.75のワークシートをロールプレイで作成できるようにしておくこと。</p> <p>第6回 行動を変えてみよう予習はp. 80～p. 98まで読んでおくこと。</p> <p>第7回 考え方のクセを見直そう(ロールプレイビデオ視聴とJIBT-R実施, 宿題レポート) 予習はp. 100～p. 114まで読んでおくこと。</p> <p>第8回 スキーマ(不合理な信念の中核要素)の変容のロールプレイ 予習はp. 114のワークシート3をロールプレイで作成できるようにしておくこと。</p> <p>第9回 症状に合わせて行うその他の認知行動療法 予習はp.116～p.138まで読み、漸進的筋弛緩法、自律訓練法、呼吸法、ACT、SST、アサーショントレーニング、EMDR、ストレス免疫訓練について調べておくこと。</p> <p>第10回 双極性障害とパニック症治療のための認知行動療法 予習はp.142～p.145を読み、双極性障害とパニック症について調べておくこと。</p> <p>第11回 社交不安症治療のための認知行動療法 予習はp.146～p.147を読み、社交不安症について調べておくこと。</p> <p>第12回 強迫性障害治療のための認知行動療法 予習はp. 150～p. 151を読み、強迫性障害について調べておくこと。</p>			

第13回 PTSD 治療のための認知行動療法

予習は p. 154～p. 155 を読み、PTSD とプロロングドエクスポージャー法と EMDR について調べておくこと。

第14回 まとめ

第15回 クライアント・センタード療法

第16回 エンカウンターグループ

第17回 フォーカシング

第18回 エモーション・フォーカスト・セラピー

第19回 精神分析療法 フロイトとユング

第20回 精神分析療法の精神病論 短期力動精神療法

第21回 精神分析療法の発展 フロイト以降の精神病論 統合失調症の精神分析療法

第22回 行動療法 系統的脱感作法、エクスポージャー法、

第23回 行動療法 アサーショントレーニング、SST、

第24回 行動療法 弁証法的行動療法 パーソナリティー障害について

第25回 行動療法 弁証法的行動療法の実際、スキーマ療法

第26回 PTSDとEMDR

第27回 家族療法

第28回 全体のまとめ

授業外学修：

前期は解説の後にロールプレイ・ビデオを視聴してもらう。また、前期には、厚生労働省の心の健康のホームページ

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaisahukushi/kokoro/index.html)にある、認知療法・認知行動療法マニュアルのまとめレポートを提出してもらう。

後期は、第16回から第27回までは、受講生にそれぞれ発表を担当してもらい、発表後にディスカッションを行うので、担当者はパワーポイントの準備が必要であり、その他の受講生は関連知識について各自自習する必要があるが最低1時間程度は必要である。

テキスト：

福井至・貝谷久宣監修 図解やさしくわかる認知行動療法 ナツメ社

参考書・参考資料等：

福井至編著 認知行動療法ステップアップ・ガイド 金剛出版

学生に対する評価：

単位修得のためには、最低1回は発表し、5種類のレポートを提出することが必要である。また、前期と後期それぞれでテストを実施する。評価は、発表10%、ディスカッションへの参加度10%、レポート30%、小テストなどの試験50%で評価する。

その他：

授業科目名： 臨床心理学面接特論I (心理支援に関する理論と実践)	単位数：2単位	必修 (高専(公民))	担当教員名：岡島 義
授業の到達目標及びテーマ 1. 力動論および行動論・認知論に基づく心理療法，その他の心理療法の理論と方法を理解できる。 2. 上記の理論と方法をどのように心理学的支援につなげるかを理解できる 3. 心理学的支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援を選択できる。			
授業の概要 臨床心理面接では精神分析理論や認知・行動理論など，心理療法ごとの理論に基づいた支援が行われている。本講義では，各心理療法の理論と方法，およびその実践内容を理解するとともに，目の前のクライアントに応じた支援方法について学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス 臨床心理学の歴史的な流れ 第2回：心理療法を行う上での重要なスキルを知る 第3回：重要なスキルを用いたロールプレイの実施 第4回：ロールプレイのフィードバック 第5回：力動論に基づく心理療法の理論 第6回：力動論に基づく心理療法：方法と実践 第7回：事例検討①：力動論に基づく症例理解 第8回：認知行動理論に基づく心理療法の理論 第9回：認知行動理論に基づく心理療法：方法と実践 第10回：事例検討②：認知行動理論に基づく症例理解 第11回：認知行動的技法を通して，実際のアプローチを学ぶ①：セルフモニタリング 第12回：認知行動的技法を通して，実際のアプローチを学ぶ②：エクスポージャー 第13回：認知行動的技法を通して，実際のアプローチを学ぶ③：認知再構成法 第14回：面接の流れの中で，専門知識・技術をどのように活用するかを学ぶ			
授業外学修： 予習1時間，復習1時間 参考図書を読んで，授業で扱ったところの詳細を理解すること。			
テキスト： 特になし			
参考書・参考資料等： 岡島義・金井嘉宏（編）「使う使える臨床心理学」（弘文堂） 三浦麻子（監修）「なるほど！心理学面接法」（北大路出版） 藤山直樹（著）「集中講義・精神分析 上・下」（岩崎学術出版） 坂野雄二・岡島 義（監訳）「認知行動療法という革命：創始者たちが語る歴史」（日本評論社）			

坂野雄二・鈴木伸一・神村栄一（著）「実践家のための認知行動療法テクニックガイド：行動変容と認知変容のためのキーポイント」（北大路出版）

学生に対する評価：

平常点30%，授業中に出す課題に対する小レポートの内容30%，レポート課題の内容40%

その他：

授業科目名： 臨床心理学面接特論Ⅱ	単位数：2単位	選択 (高専(公民))	担当教員名：相馬誠一
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 力動論に基づく心理療法の理論と方法などの臨床心理学の基礎的・基本的な内容を学ぶ。 2. その上で、力動論やその他の心理療法の理論を理解し、カウンセリングの実践力を習得する。 			
<p>授業の概要</p> <p>力動論に基づく心理療法の理論と方法などを中心に学んでいく。具体的には、力動論の技法や描画療法、箱庭療法などを実践的に学ぶことにより、基本的な内容を理解し基礎的なカウンセリングの実践力を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス・ロールプレイ#1 かかわり技法を中心に 第2回：スーパーヴィジョン#1 かかわり技法を中心に(フィードバック) 第3回：ロールプレイ#2 質問技法を中心に 第4回：スーパーヴィジョン#2 質問技法を中心に(フィードバック) 第5回：ロールプレイ#3 反射技法を中心に 第6回：スーパーヴィジョン#3 反射技法を中心に(フィードバック) 第7回：ロールプレイ#4 反映技法を中心に 第8回：スーパーヴィジョン#4 反映技法を中心に(フィードバック) 第9回：ロールプレイ#5 スクイグル法を取り入れて 第10回：スーパーヴィジョン#5 スクイグル法を取り入れて(フィードバック) 第11回：ロールプレイ#6 箱庭療法を取り入れて 第12回：スーパーヴィジョン#6 箱庭療法を取り入れて(フィードバック) 第13回：ロールプレイ#7 総合的な技法を取り入れて 第14回：スーパーヴィジョン#7 総合的な技法を取り入れて、まとめ、レポート提出</p>			
<p>授業外学修：予習・発表資料作成に1時間。学習内容の復習に1時間。 カウンセリングのロールプレイをまとめて発表資料の作成をすること。 積極的な学習態度を望む。</p>			
<p>テキスト：プリント配布</p>			
<p>参考書・参考資料等：その都度指示</p>			
<p>学生に対する評価：予習も含めて授業でのプレゼン30%、課題に対する小レポートと技法修得40%、レポート提出30%。学習態度、発表、レポート等の総合評価。</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：臨床心理査定演習I (心理的アセスメントに関する 理論と実践)	単位数：2単位	必修 (高専(公民))	担当教員名：岡島 義
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学的支援における心理的アセスメントの実践の意義，倫理，アカウンタビリティ（説明責任）について理解できる 2. 各心理アセスメントの実施手順を理解し，適切に実施・評価できる。 3. 心理アセスメントから得られた情報から，心理学的支援を要する者を包括的に理解し，適切な支援を計画できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>臨床場面では，クライアントを多面的に理解することで適切な支援を提供することができる。本講義では，心理アセスメントの意義，倫理，アカウンタビリティを理解した上で，各心理検査の理論と方法，及びその実践方法を知るとともに，ケースフォーミュレーションの理論と方法について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス：心理的アセスメントの意義，倫理，アカウンタビリティ</p> <p>第2回：知能検査の実施方法を学ぶ①：WAIS-IVを用いたロールプレイ（前半）</p> <p>第3回：知能検査の実施方法を学ぶ②：WAIS-IVを用いたロールプレイ（後半）</p> <p>第4回：知能検査の実施方法を学ぶ③：分析と解釈</p> <p>第5回：知能検査の実施方法を学ぶ④：分析，解釈，フィードバック</p> <p>第6回：質問紙検査を学ぶ①：全体的な特徴をとらえる検査（TEG-II，CMI，STAIなど）</p> <p>第7回：質問紙検査を学ぶ②：症状とその関連要因を把握する検査（BDI-II，ATQ-R，FABなど）</p> <p>第8回：構造化面接を学ぶ①：MINIの実施方法と注意点</p> <p>第9回：構造化面接を学ぶ②：模擬症例を用いたMINIの実施とフィードバック</p> <p>第10回：ケースフォーミュレーション①：生物心理社会モデルに基づく情報収集</p> <p>第11回：ケースフォーミュレーション②：情報に基づいたケースの概念化</p> <p>第12回：ケースフォーミュレーション③：ロールプレイ</p> <p>第13回：ケースフォーミュレーション④：ロールプレイのフィードバック</p> <p>第14回：模擬症例から見るケースフォーミュレーションと心理的支援</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>予習1時間，復習1時間</p> <p>参考図書を読んで，授業で扱ったところの詳細を理解すること。</p>			
<p>テキスト：特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>鈴木伸一（編）「健康心理学の測定法・アセスメント」（ナカニシヤ出版）</p> <p>三浦麻子（監修）「なるほど！心理学面接法」（北大路出版）</p> <p>松原達哉（編）「臨床心理アセスメント」（丸善出版）</p> <p>竹内健児（編）「事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方」（金剛出版）</p>			

R2 シラバス 臨床心理学専攻

学生に対する評価：

平常点30%，授業中に出す課題に対する小レポートの内容30%，レポート課題の内容40%

その他：

授業科目名：臨床心理査定演習Ⅱ	単位数：2単位	必修 (高専(公民))	担当教員名：平野真理
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>本演習では、ロールシャッハ検査を中心とした投影法アセスメントについて、検査の理論の理解、実施、スコアリング、解釈を行うスキルを身につけることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>心理職にとっての心理査定は、人間理解の一つの方法として非常に重要なものである。本演習では投影法を取り上げる。単なる知識の修得ではなく、クライアントを総合的に理解・把握するための実践的なスキルを修得することに力点をおく。ロールシャッハ検査について複数名に対する検査実施を行い、検査の実施、スコアリング、解釈のスキルを習得する。本授業を通して心理職として必要な投影法を用いたアセスメントの理論と実践能力を身につけることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション／心理アセスメントとは</p> <p>第2回：実施法の説明・プレ実施</p> <p>第3回：新・心理診断法；第3章 実施法／第4章 分類</p> <p>第4回：新・心理診断法；第5章 反応領域</p> <p>第5回：新・心理診断法；第6章 反応決定因</p> <p>第6回：新・心理診断法；第7章 反応内容／第8章 形態水準</p> <p>第7回：スコアリングのトレーニング</p> <p>第8回：新・心理診断法；第11章 反応数等／第12章 反応領域</p> <p>第9回：新・心理診断法；第13章 反応決定因</p> <p>第10回：新・心理診断法；第14章 反応内容／第15章 形態水準</p> <p>第11回：新・心理診断法；第16章 総合的解釈</p> <p>第12回：報告書のまとめ方</p> <p>第13回：臨床事例からみる効用</p> <p>第14回：ロールシャッハテストの実施・最終報告書の作成</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>演習内容について担当者を決め、発表する。担当者がでない者も、あらかじめテキストや参考書を読んで理解に努め、疑問点を明らかにしておくこと。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>新・心理診断法 片口安史，金子書房</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>具体的な指示は授業で行う。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>平常点40%、発表課題20%、最終報告書40%</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：臨床心理基礎実習	単位数： (2) 単位	必修 (高専(公民))	担当教員名：(オムニバス) 三浦正江・五十嵐友里
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理実習に向けて、心理面接の基本的態度、心理アセスメント、心理療法、地域援助等の基本を説明することができる。 2. 心理支援の基礎を実施できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本実習は、授業の到達目標を達成するために、オムニバス方式で実施する（全28回）。</p> <p>1～14回（五十嵐）：基礎的な臨床心理実習に関する知識とスキルについて学習する。</p> <p>15回～28回（三浦）：同一のクライアントロールに対する5回の継続した心理面接(ロールプレイ)とカンファレンスを通して、クライアントの問題におけるアセスメントや心理支援の実施について具体的に学習する。後半は、大学附属臨床相談センターで電話インテーク等の実習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：前期授業の内容に関するガイダンス</p> <p>第2回：心理臨床家の現況とアイデンティティ</p> <p>第3回：心理臨床家の倫理</p> <p>第4回：いろいろな援助施設における心理臨床</p> <p>第5回：心理療法の準備・心理療法の基本ルール</p> <p>第6回：面接状況の設定・記録</p> <p>第7回：クライアントの発達段階に応じた心理療法の基本ルール</p> <p>第8回：心理療法の過程で生じる諸問題</p> <p>第9回：心理臨床家と精神医学的知識</p> <p>第10回：心理面接の基礎基本（服装や身だしなみも含む）</p> <p>第11回：心理アセスメント（インテーク面接：目的と収集する情報）</p> <p>第12回：心理アセスメント（継続面接）</p> <p>第13回：基本的な面接態度の形成（履修生A、B、C、D）</p> <p>第14回：基本的な面接態度の形成（履修生E、F、G、H）</p> <p>第15回：後半の実習内容に関するガイダンス、前半での学習内容の確認</p> <p>第16回：電話インテークの目的・留意事項と基本的対応（ロールプレイ）</p> <p>第17回：電話インテークによる情報収集（ロールプレイ）</p> <p>第18回：継続事例のロールプレイ（インテーク面接）</p> <p>第19回：インテーク面接についてのケース・カンファレンス（履修生A、B、C、D）</p> <p>第20回：インテーク面接についてのケース・カンファレンス（履修生E、F、G、H）</p> <p>第21回：継続事例のロールプレイ（第2回面接）</p> <p>第22回：第2回面接についてのケース・カンファレンス（履修生A、B、C、D）</p> <p>第23回：第2面接についてのケース・カンファレンス（履修生E、F、G、H）</p> <p>第24回：継続事例のロールプレイ（第3回面接）</p>			

第25回：第3回面接についてのケース・カンファレンス（履修生A、B、C、D）

第26回：第3回面接についてのケース・カンファレンス（履修生E、F、G、H）

第27回：継続模擬事例の最終報告（履修生A、B、C、D）

第28回：継続模擬事例の最終報告（履修生E、F、G、H）、全体のまとめ

授業外学修：

五十嵐：テキストを事前に読み問題意識を持って参加すること。通常予習1時間。

発表担当者の場合は資料作成のため予習2時間。復習1時間。

第13回・14回は基本的な面接態度の形成のため、ロールプレイを行う。

ロールプレイは授業前に録画して実施し、振り返りや逐語記録を用いながら授業時に助言・指導を行う。資料作成には2時間半程度の時間を要する。

三浦：授業開始前までに、本授業の前期分（～13回）の学習内容をしっかり復習し、知識・スキルを十分に修得したうえで後期に臨むこと。

また、ロールプレイ開始後は、各面接終了後に録画動画を用いた振り返りや逐語記録・カンファレンス資料の作成に2時間半程度、各カンファレンスの助言・指導を踏まえた次回面接の準備に1時間半程度を行う。

テキスト：

鑪幹八郎他編著 「心理臨床家の手引第4版」誠信書房

参考書・参考資料等：

適宜資料を提供したり、参考書を指示する。

学生に対する評価：

授業でのプレゼン（発表や質疑への応答など）40%、質問・発言などの参加態度40%、レポート提出（三浦の課題では最終報告会の発表）20%等の総合評価。

その他：

五十嵐：発表資料を作成する際には、テキストと併せてテーマと関連する参考図書も併せて購読すること。

三浦：後期授業開始前にオリエンテーションを行い、準備学習の内容を含めた詳細についてアナウンスする。

授業科目名：臨床心理実習 I (心理実践実習)	単位数： (1) 単位	必修 (高専(公民))	担当教員名：(複数教員担当) 相馬誠一・福井至・ 三浦正江・岡島義・ 平野真理・五十嵐友里・ 齊藤和貴
授業の到達目標及びテーマ 1.医療・保健分野において、臨床心理士や公認心理師として、適切な活動ができる。 2.教育分野において、臨床心理士や公認心理師として、適切な活動ができる。 3.福祉分野において、臨床心理士や公認心理師として、適切な活動ができる。			
授業の概要 臨床心理実習 I (心理実践実習)の時間は450時間以上で、担当ケース(心理に関する支援を要する者等 を対象とした心理的支援等)に関する実習時間は計270時間以上(うち、学外施設における当該実習時間 は90時間以上)とすべきことと国から指定されている。さらに、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、 産業・労働の主要5分野のうち3分野以上の施設において実習を実施し、保健医療分野は必須とされて いる。 そのため、本実習では病院実習は、精神科実習として国立国際医療センターもしくは埼玉医科大学 川越医療センター、またデイケア実習として東京愛成会高月病院もしくは所沢メンタルクリニックで 実習を行う。また、福祉分野としては加賀福祉園で、教育分野としては北区教育委員会とさいたま市 教育委員会で実習を行う。			
授業計画 本シラバスでは1単位の实習としての21回分のスーパーヴィジョン分を授業回数としてまず示すが、 1回の授業は2時間の授業に相当するため、スーパーヴィジョン数回分に相当する。また、授業回数 を示した後で、実際の実習場所での各学生の実習について示す。その際、実習施設ごとに回数を分けて 示すが、臨床相談センターの実習と学外施設での実習は、学生により曜日が異なるものの、並行して 実施する。また、本実習は2年次前期の科目であるが、実際には1年次後期から実習は開始される。こ れは、公認心理師法で、450時間以上の実習が必要で、そのうち270時間以上は担当ケースの実習(学外 施設で最低90時間以上)が必要なためである。 第1回 オリエンテーション、臨床心理実習ノート配布、実習先決定。 第2回 臨床相談センターでのインテークの実習ノートの指導1 第3回 臨床相談センターでのインテークの実習ノートの指導2 第4回 臨床相談センターでのインテークの実習ノートの指導3 第5回 臨床相談センターでの担当ケースのスーパーヴィジョン1 第6回 臨床相談センターでの担当ケースのスーパーヴィジョン2 第7回 臨床相談センターでの担当ケースのスーパーヴィジョン3 第8回 教育分野での実習のスーパーヴィジョン1(学外実習) 第9回 教育分野での担当ケースのスーパーヴィジョン1(学外実習) 第10回 教育分野での担当ケースのスーパーヴィジョン2(学外実習)			

第11回	教育分野での担当ケースのスーパーヴィジョン3(学外実習)
第12回	保健医療分野 (外来) の実習のスーパーヴィジョン1(学外実習)
第13回	保健医療分野 (外来) の担当ケースのスーパーヴィジョン1 (学外実習)
第14回	保健医療分野 (外来) の担当ケースのスーパーヴィジョン2(学外実習)
第15回	保健医療分野 (外来) の担当ケースのスーパーヴィジョン3(学外実習)
第16回	保健医療分野 (精神科デイケア) の実習のスーパーヴィジョン1(学外実習)
第17回	保健医療分野 (精神科デイケア) の担当ケースのスーパーヴィジョン1 (学外実習)
第18回	保健医療分野 (精神科デイケア) の担当ケースのスーパーヴィジョン2(学外実習)
第19回	保健医療分野 (精神科デイケア) の担当ケースのスーパーヴィジョン3(学外実習)
第20回	福祉分野の担当ケースのスーパーヴィジョン(学外実習)
第21回	前期までの実習報告会
実習施設での実習	
実習第1回	オリエンテーション、臨床心理実習ノート配布、実習先決定 (2時間)
実習第2回	臨床相談センターでの電話インテークの指導およびロールプレイ (6時間)
実習第3回～実習第54回	1回当たり、臨床相談センターでの電話インテーク (9:00～13:00もしくは13:00～17:00) (4時間) 9月から翌年9月まで13月間毎週1回で 合計416時間
実習第55回～実習第102回	臨床相談センターでの陪席を含む担当ケースの実習 11月～11月まで 12か月間(48週)毎週1回2ケース1時間ずつ2時間の実習、合計144時間
学外実習第103回～学外実習第105回	精神科実習として、国立国際医療研究センター病院と埼玉医科大学総合医療センターで、週1回で9:00～17:00の8時間で3回の合計24時間+スーパーヴィジョン1時間ずつの3時間の合計27時間
学外実習第106回～学外実習第112回	担当ケースを決めた保健医療分野の実習 (外来) として、国立国際医療研究センター病院と埼玉医科大学総合医療センターで、週1回で9:00～17:00の8時間で12回の合計96時間+スーパーヴィジョン1時間ずつの12時間の合計108時間
学外実習第113回～学外実習第115回	保健医療分野の実習 (精神科デイケア) として、東京愛成会高月病院もしくは所沢メンタルクリニック、週1回で9:00～17:00の8時間で3回の合計24時間+スーパーヴィジョン1時間ずつの3時間の合計27時間
学外実習第116回～学外実習第122回	担当を決めたデイケア実習として東京愛成会高月病院もしくは所沢メンタルクリニック、週1回で9:00～17:00の8時間で7回の合計56時間+スーパーヴィジョン1時間ずつの7時間の合計63時間
学外実習第123回～学外実習第132回	教育分野の実習として東京都北区とさいたま市の教育委員会 (適応指導教室) 、修士1年の9月から修士1年の3月までのうち、

週1回5名以内で9:00～17:00の8時間で10週 の合計80時間 第133回 福祉分野の実習として加賀福祉園、1回9:00～17:00までの8時間の担当を決めた実習。
授業外学修：実習時間以外に実習ノートの作成などで、毎回2～3時間の授業外学習が必要である。
テキスト：配布した臨床心理実習ノート
参考書・参考資料等： 実習ノート作成のために、各自図書館等で、必要な文献を参照すること。
学生に対する評価：学内実習への参加態度（20点）、学外実習への参加態度（20点）、実習ノートの評価（20点）スーパーヴィジョンへの参加態度(20点)、実習ノートの提出状況（20点）等について総合的に評価する。
その他：

授業科目名：臨床心理実習Ⅱ (多様な形式のスーパービジョンを含む)	単位数： (1) 単位	必修 (高専(公民))	担当教員名：(複数教員担当) 相馬誠一・福井至・ 三浦正江・岡島義・ 平野真理・五十嵐友里・ 齊藤和貴
授業の到達目標及びテーマ 1. 臨床心理士として、適切なアセスメントができるようになる。 2. 臨床心理士として、適切なケースフォーミュレーションができるようになる。 3. 臨床心理士としての着実で効果的な心理臨床活動ができるようになる。			
授業の概要 臨床心理実習Ⅱでは、個人スーパービジョンと集団スーパービジョン、およびケースカンファレンスを含む実習を行う。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 電話インテークの実習ノートの振り返り1 第3回 電話インテークの実習ノートの振り返り2とスーパービジョン1 第4回 電話インテークのスーパービジョン2 第5回 教育分野での実習ノートの振り返り1 第6回 教育分野での実習ノートの振り返り2とスーパービジョン1 第7回 教育分野での担当ケースのケースカンファレンス 第8回 臨床相談センターでの担当ケースの実習ノートの振り返り1 第9回 臨床相談センターでの担当ケースの実習ノートの振り返り2とスーパービジョン1 第10回 臨床相談センターでの担当ケースの実習ノートの振り返り1 第11回 臨床相談センターでの担当ケースの実習ノートの振り返り2とスーパービジョン1 第12回 臨床相談センターでの担当ケースのケースカンファレンス 第13回 保健医療分野(外来)での実習ノートの振り返り1 第14回 保健医療分野(外来)での実習ノートの振り返り2とスーパービジョン1 第15回 保健医療分野(外来)での担当ケースのケースカンファレンス 第16回 保健医療分野(精神科デイケア)での実習ノートの振り返り1 第17回 保健医療分野(精神科デイケア)での実習ノートの振り返り2とスーパービジョン1 第18回 保健医療分野(精神科デイケア)での担当ケースのケースカンファレンス 第19回 福祉分野での実習ノートの振り返り1 第20回 福祉分野での実習ノートの振り返り2とスーパービジョン 第21回 実習報告会			
授業外学修：毎回、実習での目的や課題を明確にしておくこと。各回の実習終了時には、その目的が達成されたか、課題として残っている点は何かについて確認する。			
テキスト：配布した臨床心理実習ノート			

参考書・参考資料等：

実習ノート作成やケースカンファレンスの発表などのため、各自図書館等で、必要な文献を参照すること。

学生に対する評価：

実習ノートの評価（20点）、担当ケースの評価（20点）、スーパーヴィジョンへの参加態度（20点）、ケース・カンファレンスの発表および参加態度（20点）、実習ノートの提出状況（20点）等について総合的に評価する。

その他：

授業科目名： 臨床心理統計法特論(A群科目)	単位数：4単位	選択 (高専(公民))	担当教員名：井上俊哉
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>平均、標準偏差、共分散、相関、回帰など、統計学の基本概念の意味を説明できる。</p> <p>学術論文で用いられる種々の統計解析手法による分析結果を適切に解釈できる。</p> <p>各自の研究目的にふさわしい統計解析手法を適切に用いることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>心理学研究を行って新たな知見を得るために、研究の目的に合致したデータを集め、それらのデータを適切に処理し、結果を解釈する過程が欠かせない。この過程において重要な役割を果たすのが、統計学である。自分自身で研究を行うときはもちろんのこと、他者の研究を正しく理解し、批判的に吟味するためにも、統計学の知識は必須である。本特論では、応用場面を意識しつつ、統計学の正しい適用と解釈について理解を深めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：リサーチクエスチョンと統計学</p> <p>第2回：平均と標準偏差</p> <p>第3回：共分散と相関係数</p> <p>第4回：記述統計学と推測統計学</p> <p>第5回：平均値差の検定（2群の場合：対応無し）</p> <p>第6回：平均値差の検定（2群の場合：対応有り）</p> <p>第7回：平均値差の検定（3群以上の場合：対応無し）</p> <p>第8回：多重比較</p> <p>第9回：平均値差の検定（3群以上の場合：対応有り）</p> <p>第10回：平均値差の検定（3群以上の場合：交互作用）</p> <p>第11回：効果量とその信頼区間</p> <p>第12回：メタ分析</p> <p>第13回：検定力とその利用</p> <p>第14回：前期のまとめ</p> <p>第15回：相関の検定と回帰</p> <p>第16回：比率の検定</p> <p>第17回：重回帰分析（分散説明率）</p> <p>第18回：重回帰分析（偏回帰係数）</p> <p>第19回：パス解析</p> <p>第20回：確認的因子分析</p> <p>第21回：探索的因子分析（因子数の決定・主成分分析）</p> <p>第22回：探索的因子分析（因子の回転など）</p> <p>第23回：構造方程式モデリング</p> <p>第24回：研究論文を読む①</p>			

第25回：研究論文を読む②

第26回：研究論文を読む③

第27回：研究論文を読む④

第28回：1年間のまとめ

授業外学修：

毎回の授業の学修内容について、次回の授業までに要点をまとめて提出する。

テキスト：

参考書・参考資料等：

南風原朝和「心理統計学の基礎」有斐閣

足立浩平「多変量データ解析法—心理・教育・社会系のための入門」ナカニシヤ出版

学生に対する評価：全回数の2/3以上の出席が必須。授業内の発言（50%）、レポート（50%）によって評価する。積極的な参加を高く評価する。

その他：

授業科目名： 臨床心理学研究法特論(A群科目)	単位数：2単位	選択 (高専 (公民))	担当教員名：西村純一
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>① 自分のテーマ（研究の中心的内容）を設定し、その研究計画や実施計画を作ることができる。</p> <p>②問題と目的を明確にし、研究目的と研究倫理にかなった対象者の選定、データ収集の方法、分析法を考案し、データの性質に応じて適切な分析を行い、結果を適切に解釈・考察し、結論を導き出すことができる。</p> <p>② データ収集の時点で、データ分析の見通しを立てることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>研究テーマの設定の仕方、先行研究のレビューの仕方、問題と目的の明確化、自分の研究の特徴・独自性、対象者の選定、データの収集と分析の方法（実験法・観察法・面接法・質問紙法・事例研究法）、結果の解釈・考察、結論の導き出し方などについて学ぶ。また、自分の研究テーマに関する先行研究の紹介（各自発表）を通じて、自分の研究計画を練り直すきっかけとする。そうした研究法の学びの集大成として、授業の最後に各自、仮の修士論文計画書を提出する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：研究テーマの設定（論文題目（日・英）・キーワード（日・英）・要旨の作成（日））</p> <p>第2回：研究のプロセス（問題⇒先行研究⇒本研究の目的・特徴⇒対象者の選定⇒データの収集法（研究倫理）⇒データの分析⇒結果の整理・解釈⇒考察・結論）</p> <p>第3回：データの収集と分析（1）1要因実験、反復測定、事前・事後法</p> <p>第4回：データの収集と分析（2）2要因実験、要因計画、交互作用、単一事例実験</p> <p>第5回：データの収集と分析（3）自然観察法、実験的観察法、参加観法、観察手法</p> <p>第6回：データの収集と分析（4）構造化面接、半構造化面接、面接シナリオ、集団面接</p> <p>第7回：データの収集と分析（5）集合調査法、郵送調査法、留置き調査法、インターネット調査法</p> <p>第8回：データの収集と分析（6）調査票の設計、調査参加者のサンプリング</p> <p>第9回：データの収集と分析（7）事例研究の有効性、事例研究における一般化</p> <p>第10回：質的データの分析法：K J 法、グラウンデッド・セオリー・アプローチ</p> <p>第11回：先行研究の紹介と質疑</p> <p>第12回：先行研究の紹介と質疑</p> <p>第13回：先行研究の紹介と質疑</p> <p>第14回：まとめと解説</p>			
<p>授業外学修：自分の研究テーマに関する先行研究を読み込んで要点を理解する</p>			
<p>テキスト：「これから心理学を学ぶ人のための研究法と統計法」ナカニシヤ出版</p>			
<p>参考書・参考資料等：折に触れて関連する資料を配布する</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>平常点20%、小課題30%、レポート50%</p>			
<p>その他：</p> <p>小課題は、先行研究の紹介（既定のフォームにもとづく資料の作成と発表）</p>			

授業科目名：人格心理学特論 (B群科目)	単位数：2単位	選択 (高専(公民))	担当教員名：嶋田洋徳
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>心理臨床場面におけるパーソナリティの理解に際し、代表的ないくつかの理論的背景や具体的方法論を述べるができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>心理臨床場面において、クライアントの訴えを理解し、援助の具体的な方策を考える際に、クライアントのパーソナリティを理解することは不可欠である。本講義では、精神力動的な背景を持つパーソナリティ理論や人間性心理学を基盤にしたパーソナリティ理論との対比を行いながら、学習理論、行動理論、および認知行動理論を背景としたパーソナリティ理論について、典型的な症例を取り上げながら概観する。なお、本科目は、学位授与方針における心理臨床に関する理論と知識の基礎に位置づく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション、人格心理学の考え方</p> <p>第2回：精神力動的アプローチの理解</p> <p>第3回：人間性心理学的アプローチの理解</p> <p>第4回：認知行動理論的アプローチの理解</p> <p>第5回：アセスメントとケース・フォーミュレーション</p> <p>第6回：治療計画の立案と治療効果の評価</p> <p>第7回：エビデンス・ベーストの考え方</p> <p>第8回：事例研究（1）：児童期の事例</p> <p>第9回：事例研究（2）：青年期の事例</p> <p>第10回：事例研究（3）：成人期の事例</p> <p>第11回：事例研究（4）：老年期の事例</p> <p>第12回：生物-心理-社会モデル</p> <p>第13回：認知（行動）モデルの考え方</p> <p>第14回：まとめと今後の研究課題</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>毎授業後には、授業中に別途指示するレポートを提出すること（60分程度を要する）。なお準備学修には、予め示す専門用語の意味を調べておくこと（60分程度を要する）。</p>			
<p>テキスト：使用しない。適宜プリントを配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：授業中に適宜紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>授業中の取り組み、小課題への取り組み、レポートの3側面から評価する。平常点(20%)，小課題(60%)，レポート(20%)とする。</p>			
<p>その他：</p> <p>小課題やレポートに対してはフィードバックを行う。</p>			

授業科目名：認知心理学特論 (B群科目)	単位数：2単位	選択 (高専(公民))	担当教員名：高橋秀明
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>認知心理学の研究方法を理解し、日常生活や臨床現場での諸問題へ対処するための知識やスキルを身につけることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>われわれ人間は、日常生活を送る上で、さまざまな認知活動を行っている。認知心理学は、実験的な方法ばかりでなく、調査や観察といった方法によっても、認知活動にアプローチしている。本講では、認知心理学の各領域からいくつかの課題を体験し、日常生活での意味について検討することを通して、認知心理学の研究手法と理論とを身に付けることを目標とする。また、臨床心理学と認知心理学との接点についても議論する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 認知心理学の基本概念についてのテスト</p> <p>第2回：認知心理学の基本概念についての解説</p> <p>第3回：感覚・知覚・運動研究の実習：反応時間</p> <p>第4回：感覚・知覚・運動研究の実習：生態心理学的体験</p> <p>第5回：記憶研究の実習：文脈効果</p> <p>第6回：記憶研究の実習：処理水準</p> <p>第7回：問題解決研究の実習：課題分析</p> <p>第8回：問題解決研究の実習：機能的固着</p> <p>第9回：問題解決研究の実習：論理的思考</p> <p>第10回：言語、社会、文化研究の実習：集団思考</p> <p>第11回：言語、社会、文化研究の実習：人工物の使いやすさ</p> <p>第12回：臨床心理学と認知心理学との接点について文献検討(1)</p> <p>第13回：臨床心理学と認知心理学との接点について文献検討(2)</p> <p>第14回：自己概念について文献検討 まとめ</p>			
<p>授業外学修：実習の回では、授業後に、実習に関連した課題レポートを提出する。</p> <p>文献検討の回では、文献を読み込み、プレゼンテーションを行うための準備を必要とする。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>特になし 授業でプリントを配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>授業の中で紹介する</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>授業中の討議への参加などの平常点40点、文献紹介20点、課題に対するレポート提出40点。</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：社会病理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と 支援の展開) (C群科目)	単位数：2単位	選択 (高専(公民))	担当教員名：太田大介
授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・心理、教育、福祉の領域における社会病理現象を列挙できる。 ・さまざまな社会病理現象への対応策を説明できる。 ・個々の社会病理現象を背景にした問題に臨床心理士や公認心理師として意見できる。 			
授業の概要 社会病理は人間が生きていく過程で現れる社会的異常をとりあつかう分野で、個人と集団の病理から地域社会や社会全体の病理までを含む。個人を支える環境は、大家族から核家族、独居へと変遷し、犯罪面では地下鉄サリン事件などわが国は世界に先駆けて集団テロ事件を経験した。この講義では、今日の社会の諸相を背景にしたさまざまな事象に、臨床心理士および公認心理師が、専門領域の知識にとどまらず、生物、心理、社会、倫理を含む多角的視点から適切な介入を見出していくことを目指す。			
授業計画 第1回：社会現象、集団の心理とは何か 第2回：今日の日本社会の諸相 ① 日本の医療・介護システムと社会 第3回：今日の日本社会の諸相 ② 高齢化社会から高齢社会・多死社会へ 第4回：今日の日本社会の諸相 ③ 少子化、人口減少と地域のまとまり 第5回：今日の日本社会の諸相 ④ 高度成長期までの社会的要請と今日の価値観 第6回：精神障害・心の問題 ① うつ病、自殺 第7回：精神障害・心の問題 ② 不安障害 第8回：精神障害・心の問題 ③ 引きこもり、発達障害、不登校 第9回：精神障害・心の問題 ④ 人格障害、心理療法 第10回：精神障害・心の問題 ⑤ 依存症と現代社会 第11回：学校教育・犯罪領域 触法精神障害者、少年犯罪 第12回：学校教育・犯罪領域 地下鉄サリン事件など 第13回：学校教育・犯罪領域 児童虐待、老人虐待、人種差別 第14回：まとめと解説			
授業外学修： 予習1時間、復習1時間、参考図書とテキストを読み授業で発表し議論する準備をする			
テキスト： 太田大介：心療内科の思考プロセス。南山堂			
参考書・参考資料等： <ol style="list-style-type: none"> 1. 高山義浩：地域医療と暮らしのゆくえ、超高齢社会をともに生きる。医学書院 2. 広井良典：創造的福祉社会「成長」後の社会構想と人間・地域・価値。ちくま新書 3. Anthony Ray Hinton：奇妙な死刑囚。海と月社 			

4. 長谷守：淳．新潮文庫
5. 村上春樹：アンダーグラウンド．講談社文庫
6. 村上春樹：約束された場所で．文春文庫

学生に対する評価：

平常点50% 小課題50%

その他：

講義で与えた課題について自ら調べて発表、議論していただく機会を持ちたい

授業科目名： 家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) (C群科目)	単位数：2単位	選択 (高専(公民))	担当教員名：大熊保彦
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>家族心理学のパラダイムを学修し、家族や家族メンバー間の行動・相互作用を理解することができる。また、それを基礎にして初歩的な家族面接やその視点を導入した個人面接が実施できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>家族心理学は比較的新しい学問領域なので、「システム」などに代表されるこの領域の専門用語は心理学において必ずしも一般的ではない。授業は家族心理学に関する主たる概念を学習するとともに、家族心理学の基本的なパラダイムを理解する。また、家族心理学は臨床的必要性に応じて成立し理論化されてきたという歴史的経緯があることから、家族療法の技法やその特徴についても言及する。特に従来の心理療法との異同、それへの影響や最近の動向についても学習する。オリエンテーション</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：家族とは何か：現代の状況と課題</p> <p>第3回：家族というシステム</p> <p>第4回：構造派</p> <p>第5回：多世代派</p> <p>第6回：コミュニケーション派</p> <p>第7回：短期療法</p> <p>第8回：ナラティブセラピー</p> <p>第9回：リフレクティングプロセス</p> <p>第10回：オープンダイアローグ</p> <p>第11回：家族アセスメント</p> <p>第12回：家族療法の実際 (DVD) と解説</p> <p>第13回：個人療法における「家族」の視点と活用</p> <p>第14回：補遺と討論：システム思考とカウンセリング</p>			
<p>授業外学修：講義内容について担当を決めておき、pptを用いて発表する。担当者は、テキストの字句を並び替えただけの発表ではなく、広く資料を参照して内容を豊かにし、自分の言葉で表現できるように努めること。担当でない者も、担当者に質問するだけでなく、担当者が発表していない部分を補ったり、自分内里の解釈や考えを付加したりするなど、内容の深化に寄与すること。</p>			
<p>テキスト：特に定めない</p>			
<p>参考書・参考資料等：「家族心理学ハンドブック」, 「家族療法テキストブック」</p>			
<p>学生に対する評価：発表内容60%, 授業への関与40%で評価する。</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と 支援の展開)(D群科目)	単位数：2単位	選択 (高専(公民))	担当教員名：中野正寛
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>保健医療分野における臨床心理士および公認心理師の業務の実践に必要な精神医学の診断と治療について理解し、述べることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>保健医療分野における臨床心理士および公認心理師の業務の実践に必要な精神医学の概要、主要な精神疾患の症状、経過、診断、治療などの基本事項を正しく理解し、習得する。精神障害を有する人々が抱える困難を知り、適切な支援方法を具体的に考える力を養う。</p> <p>主に、講師から与えられた課題について学生が調べてまとめ、それを発表し、その課題について議論することによって授業を進行する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：精神医学の概要</p> <p>第2回：統合失調症 (1) 概念と診断、成因、疫学、経過と予後</p> <p>第3回：統合失調症 (2) 症状、治療 (急性期、安定期～回復期)</p> <p>第4回：気分障害 (1) 概念と診断、成因、疫学、経過と予後</p> <p>第5回：気分障害 (2) 症状、治療</p> <p>第6回：不安障害と強迫性障害</p> <p>第7回：ストレス関連障害、解離性障害</p> <p>第8回：身体疾患や精神作用物質による精神障害</p> <p>第9回：児童期や思春期の精神障害、発達障害、知的障害</p> <p>第10回：壮年期の精神障害</p> <p>第11回：老年期の精神障害</p> <p>第12回：精神科治療について</p> <p>第13回：臨床心理士、公認心理師と医師、他の医療スタッフの連携</p> <p>第14回：まとめ</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>課題を与えられた学生は、それについて調べ、発表の準備をする (3時間以上)。その他の学生も課題について2時間程度かけて予習する。1～2時間程度の復習もする。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>精神医学特論 (放送大学教育振興会)</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>授業への参加態度、レポートによって評価する。評価割合は、授業参画度60%、レポート40%。</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：心身医学特論 (保健医療分野に関する理論と 支援の展開)(D群科目)	単位数：2単位	選択 (高専(公民))	担当教員名：近喰ふじ子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>「心身医学」は心身症を発症するプロセス研究と言っても過言ではない。プロセス研究と言っても、発症するに至る経過を研究するというのではなく、経過に至るまでのさまざまな身体におけるメカニズムを解き明かすのが主眼といえる。すなわち、心身症の患者理解を基本とし、その成り立ちや考え方を学び、心身相関の理解へと繋げる。また心身症に対して、臨床心理士および公認心理師として適切な心理臨床が実践できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>心身医学は精神医学とは異なる学問である。そのため、身体疾患の医学の知識が当然ながら要求される。しかし、精神疾患の知識の必要性も要求されることを申し述べておく。</p> <p>さて、ここでの講義は講師が学生に与える課題(テーマ)を調べ、講義の中でプレゼンテーションをおこなえるようにし、学生からの質疑応答に答えられることを目的とする。発表形式は紙媒体だめとは限らず、電子媒体の方も駆使できることを優先する。また、学生の疑問からの課題もあり得ることを付加しておく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：心身医学とその歴史の変遷</p> <p>第2回：心身症と神経症との相違(心身症の考え方)</p> <p>第3回：心身症発症のメカニズム</p> <p>第4回：心身症診断の決めるてはあるのか?</p> <p>第5回：心身症で使用される各種心理テスト(1)質問紙法</p> <p>第6回：心身症で使用される各種心理テスト(2)投映法</p> <p>第7回：心身症治療技法(1)自律訓練法</p> <p>第8回：心身症治療技法(2)芸術療法</p> <p>第9回：心身症治療技法(3)交流分析法</p> <p>第10回：心身症治療技法(4)家族療法</p> <p>第11回：心身症治療技法(5)認知行動療法</p> <p>第12回：心身医学におけるチーム医療と臨床心理士・公認心理師の役割</p> <p>第13回：症例検討1 摂食障害</p> <p>第14回：症例検討2 過敏性腸症候群</p>			
<p>授業外学習：講義で学習したことと、理解できたことやできなかったことの中でも、興味・関心のあ る疾患をレポートにまとめ、各自がプレゼンテーションを行い、ディスカッションする。予習と復習 にそれぞれ100分程度以上必要である。</p>			
<p>テキスト：1. 「ストレスと病い」 監修；吾郷晋浩(関西看護出版)</p> <p>2. 「健康のための心理学」 小林芳郎(編集) (保育出版)</p>			
<p>参考書・参考資料等：同上</p>			

R2 シラバス 臨床心理学専攻

学生に対する評価：平常点20%、課題30%、試験50%とする。

その他：なし

授業科目名： 障がい児・者心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援 の展開)(D群科目)	単位数：2単位	選択 (高専(公民))	担当教員名：近喰ふじ子
授業の到達目標及びテーマ <p>1952年のDSM-1が作成され、2013年にDSM-5が公表された。DSM-5の訳語は精神科病名検討連絡会で訳語を確認するように、出版社に協力を求めたことで2014年に日本語訳が刊行された。ここではその新しい日本語訳を学習し、理解する。なお、健常児と発達障がい児との違いを生活・学習・人間関係などから理解すると同時に、発達障がいは脳の疾患であると捉えることの意義も理解する。ここでは小児ばかりでなく、見過ごされてきた成人の発達障がいの問題点についても言及し、理解することができる。</p>			
授業の概要 <p>毎回、担当学生は与えられたテーマの課題について発表原稿を作成し、報告をする。そして、参加者全員でディスカッションができ、新たな疑問や気づきが得られることを期待する。ビデオなどを利用することもある。</p>			
授業計画 <p>第1回：何故、今までは問題にならなかったのかを考える（不登校・緘黙）。</p> <p>第2回：新しい発達障がい病名を理解する。</p> <p>第3回：新発達障がいについて学習する（1）。</p> <p>第4回：新発達障がいについて学習する（2）。</p> <p>第5回：新発達障がいについて学習する（3）。</p> <p>第6回：新発達障がいについて学数する（4）。</p> <p>第7回：発達検査を理解し、その実践を体験する。</p> <p>第8回：知能検査（1）を理解し、その実践を体験する。</p> <p>第9回：知能検査（2）を理解し、その実践を体験する。</p> <p>第10回：療育（理学療法士、作業療法士、言語療法士）の意義を理解する。</p> <p>第11回：発達障がいを質問紙から理解する。①PFスタディ</p> <p>第12回：発達障がいを質問紙から理解する。②小児エゴグラム</p> <p>第13回：発達障害を芸術から理解する。①風景構成法</p> <p>第14回：発達障害を芸術から理解する。②コラージュ法</p>			
授業外学修：与えられたテーマによる学外実習をおこない、試験の代用としてレポートを提出する。			
テキスト：なし			
参考書・参考資料等：1. 障害児の理解と支援：近喰 ふじ子、宮尾益知（監修）駿河台出版 2. 自閉症スペクトラム入門：サイモン・バロン＝コーエン（著）、水野 薫、鳥居深雪、岡田 智（訳）、中央法規 3. 跳びはねる思考：東田直樹、イースト・ブレス			

R2 シラバス 臨床心理学専攻

学生に対する評価：平常点は30%、体験学習とレポート点は70%.

その他：なし

授業科目名： グループ・アプローチ特論 (E群科目)	単位数：2単位	選択 (高専(公民))	担当教員名： バーンズ亀山静子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人と集団のメンタルヘルスの理解とその向上のための様々な技法を学び、その特性を比較できる。 ・ピア・サポートの技法を学び、実施できる。 ・ピア・サポートの活用の異なる現場での可能性を探索し、プログラムを立案できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>このコースでは、学校で起こっている問題、子どもたちの成長課題や日常的な悩み、さらに軽度発達障害などに触れ、その予防・援助方法として展開できるグループ・アプローチの計画実施するプロセスを演習を通じて行い、学校やコミュニティで仕事をするときに必要な考え方を身につける。授業内容にピア・トレーナー研修が組み込んであるので、受講後、トレーナー資格を日本ピア・サポート学会に申請すれば取得できる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：子どもをめぐる問題・子どもの生活の中の問題</p> <p>第2回：軽度発達障害と子どもの生活</p> <p>第3回：学校でのグループ・アプローチの活用</p> <p>第4回：ピア・サポート概論</p> <p>第5回：ピア・サポートの技法①（自己理解・他者理解／動機づけ）</p> <p>第6回：ピア・サポートの技法②（コミュニケーションスキル：アテンディング、ノンバーバル・スキル、コミュニケーション・ブロック）</p> <p>第7回：ピア・サポートの技法③（コミュニケーションスキル：積極的傾聴のスキル、質問のスキル、表現のスキル）</p> <p>第8回：ピア・サポートの技法④（問題解決スキル、対立解消スキル）</p> <p>第9回：ピア・サポートの技法⑤（危機対応、スーパービジョン）</p> <p>第10回：ピア・サポートの技法⑥（個人プランニング、活動の立案）</p> <p>第11回：ピア・サポートの技法⑦（プログラム導入のためのデザイン）</p> <p>第12回：ピア・サポートの技法⑧（評価、プログラム維持）</p> <p>第13回：いろいろなグループ・アプローチ（SGE、SST他）</p> <p>第14回：目的に沿ったグループ・アプローチの計画立案・まとめ</p>			
授業外学修：特になし			
テキスト：			
配布物			
参考書・参考資料等：特になし			
<p>学生に対する評価：</p> <p>平常点50%、少課題20%、レポート30%</p>			
その他：			

授業科目名： 学校臨床心理学特論（教育分野 に関する理論と支援の展開）	単位数：2単位	選択 （高専(公民)）	担当教員名： バーンズ亀山静子
授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・学校臨床心理学の理論を理解し、教育分野に関わる公認心理師の役割を特定できる。 ・学校現場で現状把握や介入に活用できる手法や技法を学び使える。 ・児童期・青年期の心の発達と危機を踏まえて、学校臨床心理学の実際として「不登校」「いじめ」「非行」などの課題と対応の現状を分析師、介入の方法を比較する。 ・児童期・青年期の発達、学習科学、神経心理学に基づき、特別支援教育と行動問題との関連と介入方法を特定できる。 			
授業の概要 今日の学校臨床はいじめ、不登校、非行などの実践的な課題の対応に迫られている。これらの課題は、ただ単なる対処療法や単一理論では、解決が困難である。そこで、学校臨床心理学の意義と役割を明らかにし、教育分野に関わる公認心理師の理論と実践について理解する。具体的には、児童期・青年期の心の発達と危機を踏まえて、学校臨床心理学の実際として「不登校」「いじめ」「非行」などの課題と現状を分析し理解する。			
授業計画 第1回：ガイダンス・学校臨床心理学とは 第2回：組織・体制 第3回：教育相談係り 第4回：不登校 第5回：いじめ 第6回：非行 第7回：アメリカ合衆国の体制 第8回：諸外国の体制 第9回：生徒指導との関連・他機関との連携 第10回：現状把握の手法 第11回：子どもの課題の実際 不登校など 第12回：子どもの課題の実際 いじめなど 第13回：子どもの課題の実際 非行・暴力行為など 第14回：評価・授業計画、まとめ			
授業外学修：各回の授業に関する教科書部分を読み授業に参加し、復習も行うこと。 予習・復習ともに約1時間程度ずつ。			
テキスト：グラフィック学校臨床心理学（2010年、サイエンス社）、配布資料			
参考書・参考資料等：特になし			
学生に対する評価：平常点50%、小課題20%、レポート30%			
その他：			

授業科目名：発達臨床心理学特論 (E群科目)	単位数：2単位	選択 (高専(公民))	担当教員名：平野真理
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>人生の各段階における関係性の発達と課題、および、その時期に寄り添う心理支援について把握できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>E.H.Eriksonのライフサイクル論をもとに、人生の各段階における関係性の発達と、その時期の人間関係(社会)の中で生きるにあたり直面する課題を確認する。それらの課題へのつまづきを、個人の内面的・不変的な問題として見るよりも、関係性の中で生じるものとして、また、絶えず変化し続ける人生の一過程の中で生じているものとして捉える視点を学ぶ。また、各時期における関係性の課題へのつまづきに、寄り添う支援について、様々な現場の実践を取り上げながら学ぶ。本授業を通して臨床心理士として広い人間理解の視野を持てこることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：基本的信頼対基本的不信／周産期の発達への寄り添い</p> <p>第3回：自律対恥と疑惑／乳幼児期の発達への寄り添い</p> <p>第4回：自主性対罪の意識／児童期の発達への寄り添い</p> <p>第5回：勤勉対劣等感／学童期の発達への寄り添い</p> <p>第6回：アイデンティティ対アイデンティティ拡散／青年期の発達への寄り添い</p> <p>第7回：成人期の三つの段階／成人期の発達への寄り添い</p> <p>第8回：中年期・老年期の発達への寄り添い</p> <p>第9回：事例論文からみる関係性の発達発達臨床支援(1)</p> <p>第10回：事例論文からみる関係性の発達発達臨床支援(2)</p> <p>第11回：事例論文からみる関係性の発達発達臨床支援(3)</p> <p>第12回：事例論文からみる関係性の発達発達臨床支援(4)</p> <p>第13回：事例論文からみる関係性の発達発達臨床支援(5)</p> <p>第14回：まとめ</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>毎回の授業前に該当部分を読んでくる。発表担当を割り振り、自分の発表準備のために文献を読みブレゼン資料を作成する。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>E.H.エリクソン(著)西平直・中島由恵(翻訳)「アイデンティティとライフサイクル」誠信書房</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>授業の中で紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>平常点40%、発表課題40%、レポート20%</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	単位数：2単位	選択 (高専(公民))	担当教員名：西村純一
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>本授業は、複雑化する産業・労働分野における「心の専門家」を目指す大学院生が、臨床心理士および公認心理師の実践に必要な、産業領域に対応していく上で基礎となる産業領域プロパーの知識と技術を身に着け、産業現場にかかわる態度を涵養する。とくに、働く人間のキャリア形成と適応上の諸問題の実際とそれに対応するための理論や技術を理解する。また、組織ストレスが強まる中、働く人間のメンタルヘルスの諸問題の実際とそれに対応するための理論や技術を習得できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>前半は、働く人間のキャリア形成と適応上の問題に焦点を当てながら、仕事への動機づけ、採用と面接、人事評価、キャリア発達、職場のコミュニケーションと人間関係、リーダーシップ、仕事の能率と安全についての理論と技術について解説する。後半は、働く人間のメンタルヘルスの問題に焦点を当てながら、組織に関する理論、組織における個人の支援、労働関連法規、産業精神保健などについて解説するとともに、産業心理臨床の実践事例について検討を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：仕事への動機づけ（ワーク・モチベーション）</p> <p>第2回：適性、採用選抜、採用面接、人事評価</p> <p>第3回：キャリアに関する理論、キャリア・カウンセリング、キャリア発達に関する問題</p> <p>第4回：職場集団、職場の規範、職場の人間関係</p> <p>第5回：リーダーシップ、特性論、行動論、2要因論、状況論、組織変革とリーダーシップ</p> <p>第6回：仕事の能率と安全、作業負担、疲労、ヒューマン・エラー、事故防止</p> <p>第7回：職場のストレス、メンタルヘルス、ストレス対処</p> <p>第8回：組織と個人、組織における個人の支援</p> <p>第9回：労働関連法規</p> <p>第10回：産業精神保健</p> <p>第11回：産業心理臨床の実践例の紹介と検討（1）</p> <p>第12回：産業心理臨床の実践例の紹介と検討（2）</p> <p>第13回：産業心理臨床の実践例の紹介と検討（3）</p> <p>第14回：まとめと解説</p>			
<p>授業外学修：産業心理臨床の実践例で紹介する事例についての情報収集と資料の作成</p>			
<p>テキスト：</p>			
<p>参考書・参考資料等：「産業心理臨床実践：個人と職場・組織を支援する」ナカニシヤ出版</p>			
<p>学生に対する評価：平常点20%、小課題30%、レポート50%</p>			
<p>その他：小課題は、産業心理臨床の実践例の紹介（既定のフォームにもとづく資料の作成と発表）</p>			

授業科目名：生徒指導・教育相談・キャリア教育(心の健康教育に関する理論と実践)	単位数：2単位	必修 (高専 (公民))	担当教員名：(オムニバス) 相馬誠一・三浦正江
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 心の健康教育に関する理論と実践（生徒指導・教育相談・キャリア教育）の基礎を説明できる。 基本的な心の健康教育を実践できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>心の健康教育、生徒指導、教育相談、キャリア教育の基本的な知識および基本的なスキルの習得を目的とする（オムニバス方式／全15回）。</p> <p>（相馬／1回～7回）基礎的な知識とスキルについて学習する。</p> <p>（三浦／8回～14回）心の健康教育の基盤となる理論や実践例を学び、様々な分野で心の健康教育を行うために必要な知識とスキルを習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 自己紹介 生徒指導の意義と原理</p> <p>第2回：教育課程と生徒指導</p> <p>第3回：児童生徒の心理と児童生徒理解</p> <p>第4回：学校における生徒指導体制</p> <p>第5回：教育相談</p> <p>第6回：生徒指導の進め方</p> <p>第7回：学校と家庭・地域・関係機関との連携</p> <p>第8回：心の健康教育（1）：心理的ストレスに関する理論（Lazarus & Folkman）</p> <p>第9回：心の健康教育（1）：様々な分野におけるストレスマネジメント</p> <p>第10回：心の健康教育（2）：精神科領域におけるソーシャルスキル・トレーニング</p> <p>第11回：心の健康教育（2）：学校での学級を対象としたソーシャルスキル・トレーニング</p> <p>第12回：心の健康教育（3）：アサーションに関する理論</p> <p>第13回：心の健康教育（3）：様々な分野におけるアサーション・トレーニング</p> <p>第14回：ストレスチェックリストを用いた学校現場における協働の実際</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>相馬：テキストを事前に読み、問題意識を持って参加する。また、予習・発表資料作成1時間、復習1時間を行う。</p> <p>三浦：各自で発表課題に関する準備を行う（8時間程度）。授業ごとに、指示された予習課題（45分程度）と復習課題（45分程度）を行う。</p>			
<p>テキスト：文部科学省「生徒指導提要」教育図書。</p>			
<p>参考書・参考資料等：その都度資料を提供し、参考書を指示する。準備教育を演習・実習形式で行う。</p>			
<p>学生に対する評価：予習も含めて授業でのプレゼン30%、課題に対する受け答え・質問・発言などの平常点40%、レポート提出30%等の総合評価。相馬担当回と三浦担当回の評価を総合して行う。</p>			
<p>その他：なし</p>			

授業科目名：研究指導 特別研究	単位数：4単位	必修	担当教員名：7名
<p>授業の概要</p> <p>臨床心理学に関して、研究の実践、指導を行い、またこれらについて論文指導を行う。</p> <p>(福井至)</p> <p>認知行動モデルの構築と、そのモデルに基づく認知行動療法の効果検証に関する研究を主に指導する。研究テーマの設定から、実験調査計画の策定と実施、データ分析、論文作成について順次指導していく。</p> <p>(井上俊哉)</p> <p>各自の関心に合致する心理学研究を数多く読み込むことから始める。そして、先行する研究で明らかになっていること、未解決な問題を整理した上で、オリジナルな研究を構想する。</p> <p>(相馬誠一)</p> <p>修士論文の作成に関する指導を行う。具体的には、①修士論文のテーマ決定、②先行研究のレビューと研究計画の立案、③データの収集・分析、④論文執筆といった研究活動について、発表と討論を通して進めていく。学会発表も積極的に行う。</p> <p>(三浦正江)</p> <p>修士論文の作成に関する指導を行う。具体的には、①修士論文のテーマ決定、②先行研究のレビューと研究計画の立案、③データの収集・分析、④論文執筆といった研究活動について、発表と討論を通して進めていく。</p> <p>(岡島 義)</p> <p>睡眠科学、行動科学、認知行動療法に関する研究を主に指導する。研究テーマの設定から、実験・調査計画の策定と実施、データ解析、論文作成について指導していく。学会活動への参加・発表も積極的に行う。</p> <p>(五十嵐友里)</p> <p>修士論文の作成に際して、リサーチクエスションの設定、研究計画の立案、データの収集と解析、論文執筆のための指導を行う。主に医療心理学、行動科学、認知行動療法に関する研究を対象とし、臨床的意義のある知見の構築を目指す。</p> <p>(平野真理)</p> <p>先行研究からリサーチクエスションを導きだし、効果的な研究デザインを設計したうえでデータ収集および分析を遂行するための指導を行う。対象者の心のあり方を尊重し、適応やパーソナリティ特性について、多面的な視座を持つ研究を目指す。</p>			